



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和5年1月発行

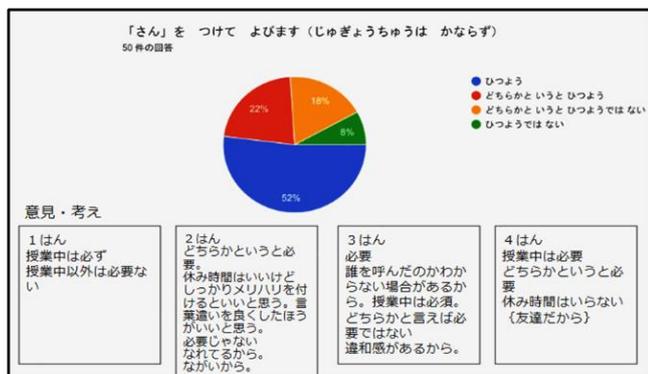
「子供たちによる、子供たちのための学校づくり」② 校長 土屋 貴俊

丹那小学校は、「子供が考え、協働し、学んで育つ学校」を目指しています。本校の子供たちは、「素直で真面目で約束事は守ることはできるが、主体性に欠けるところがある」といわれてきました。この変化の激しい時代をたくましく生き抜くためには、いろいろな価値観をもった人と課題を共有し協働する力、自ら考え判断し行動する力が必要です。

11月から始めた「自分みがきタイム」の取組は、自己理解し自分で考えて学びを進められる子供を期待しています。

また、12月に18項目の「丹那っ子の約束」について全児童が「その約束事が必要であるか、ないか」と「その理由」について考え、タブレットを使って意見を集約しました。ほとんどの約束は、子供たちも必要であると考えていましたが、次の3つの約束については2割以上の子供たちが疑問を感じていることも分かりました。

- ① 友達をよぶときは、「さん」をつけてよびます。
- ② 勝手に自分のものを貸したりあげたりしません。
- ③ フード付きの上着は、フードは頭にかぶりません。



そこで、このような子供たちの多様な思いを共有するために、たてわりの4つの班に分かれて18の約束について出された意見を確認し自分の思いを述べていきました。話合いの議長は6年生が務めました。

それぞれの班で出された意見を6年生がタブレットに入力していくと左の写真のような画面がテレビに映し出され、別教室にいる他の班の意見もすぐに知ることができました。

議長になった6年生は、少数派の意見に対しても「確かに」「なるほど」「そうですね」等と共感し、意見を出してくれたことに感謝するように個の思いを大切に扱っていました。そのため1年生も自分の意見を言いやすくなり、全員が話合いに自分事として参加しました。子供たちはこの活動を通して、「約束の意味やいろいろな考え方があること」や「自分たちが安心して気持ちよく生活するためには意見を述べる必要があること」を学びました。

子ども権利条約や子ども基本法 (R5.4.1 施行) には、子供の意見表明権が明記されています。どの子でも「こうしたい」「こうなりたい」という思いや大人に「こうしてほしい」という願いをもっているはず。自分の思いや願いを伝え、認めてもらうことで「将来にわたり幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指す大人」に成長していくことでしょう。さらには、「自分の思いを聞いてもらえた」「大切にしてくれた」経験から他者を大切にしようとする人権感覚も育っていくのではないのでしょうか。